

20. 大阪府てんかん地域診療連携体制整備事業 令和4年度の活動について

大阪大学医学部附属病院てんかんセンター
貴島晴彦

まとめ

大阪府のてんかん地域診療体制拠点事業は令和元年7月8日に拠点病院として大阪大学医学部附属病院が指定され開始となった。令和4年度はこれまでの3年間の実績がまとめられ、継続して大阪大学医学部附属病院がてんかん地域診療体制拠点として大阪府から指定された。前回は3年間の時限が設けられたが、今回は時限のない指定となった。令和4年度も大阪府の特性を活かしたてんかん地域診療拠点体制を構築することを目指した。引き続き主な事業計画として、啓発活動、教育、ネットワーク整備とした。特に地域での診療連携、患者の利便性の向上を目的とした活動を行なった。

1. 概要

大阪府はてんかん地域診療体制拠点事業に参加している道府県の中では最も人口の密集している地域であり、日本で唯一いわゆる僻地が存在しない自治体であるとも言われている。また、てんかんを扱う医療施設も府内に点在している。そのため、本整備事業では協議会のメンバーが府内の複数の施設から参加している。また、それぞれの施設の診療内容、所在地や交通の面でも特徴がある。単一の施設のみでてんかんに関わる多くの問題解決を担う必要には迫られていない。そこで、大阪府では当初より主な事業として、啓発活動、教育、患者の立場での診療情報と病院間ネットワーク形成を掲げている。令和4年度もこの方針を継続した活動を行なった。

2. 大阪府のてんかん整備事業

2.1. 啓発活動、教育

医療従事者、関係機関職員、てんかん患者・家族などに対する研修

1. 河南町及び太子町地域ケア担当者会議 (2022年2月28日) 近畿大学
2. ペランパネルの特性から高齢者てんかんの Best Patient Type を考える. デジタルモノセラピーカンファレンス (2022年6月21日 WEB開催) 吹田市立病院
3. 医療的ケア児家族へのてんかん講演&交流の会:「医療的ケア児の家族のためのてんかん講座」:(2022年6月25日 オンライン) 大阪市立総合医療センター
4. ウエスト症候群家族会:「West 症候群(点頭てんかん)の基礎知識と最新の知見」:(2022年7月3日 オンライン) 大阪市立総合医療センター主催
5. 医療的ケア児家族へのてんかん講演&交流の会:「医療的ケア児の家族のためのてんか

ん講座」：(2022年7月23日 オンライン) 大阪市立総合医療センター

6. 令和4年度看護師配置支援学校における応用研修会：「けいれん・てんかんの正しい知識と救急対応について」(2022年8月29日 大阪) 大阪市立総合医療センター主催
7. 小児てんかんに関する市民公開講座：こどものひきつけ2022 “Online”
大阪市立総合医療センター主催 (2022年9月7日～21日 オンライン)
 - ・「てんかんの“正しい知識”を学ぶ –基礎知識から最新の治療法まで–」
 - ・「薬の効果が不十分なてんかんに対する外科治療の提案」
 - ・「おとなになった”てんかん”との付き合い方」
 - ・「てんかんのオンライン診療(遠隔診療)開始について」
8. 地域で支えるてんかん診療－脳卒中後てんかんの話題も含めて－ Neurological Topics Seminar (2022年9月29日 現地) 吹田市立病院
9. 若手医師向けのWebコンテンツ「すべての医師に知って欲しい！てんかんの話」
(配信期間：2023年12月23日～2023年6月30日) 大阪大学
10. 在宅医療従事者(ケアマネージャー)向け研修会(テーマ：パーキンソン病・てんかん)
(2023年1月24日 堺市) 日本てんかん協会大阪府支部
11. 医療者向けてんかんセミナー2023 2月15日開催(予定) 大阪大学
12. 「てんかんの基礎」(令和5年3月19日(予定)) 日本てんかん協会大阪府支部

2.2. 患診療情報の共有と病院間ネットワークの形成

Nanacara for Doctor を用いた医療者間の情報共有システムの構築

すでに小児てんかん患者の保護者を中心として発作回数、服薬内容を記録しその変化を見やすくするために大阪市立総合医療センターと企業が開発している Nanacara というアプリが使用されている。患者(保護者)はアプリに発作や服薬の記録を入力し、医師はその医師に対して閲覧を許可した患者のデータを見ることができる。診察の際には発作記録をグラフ化して閲覧することができる。

「nanacara」で記録した発作情報などを、診察時にパソコン等で閲覧できる医師向けサービス

【診療の効率化を支援】

- ・患者ご家族が記録した発作情報を、より正確に、より短時間に確認できます。
- ・PDF出力により、電子カルテとの連携も可能です。



この医師用のアプリ Nanacara for Doctor を用いて、大阪府下の登録医師の情報交換に用いるべくアプリを開発した。まずは1方向に情報を提供するシステムを構築した。さらにコミュニケーションの場となるように進めていく予定としている。

共通紹介状

共通フォーマットを元に各施設に合う形に修正した様式を使用しながら、HPにも案内を掲載し情報提供が必要な内容を紹介元のクリニック等に周知していく。

てんかん相談窓口

てんかん患者あるいは家族のための相談窓口をホームページ上に設置し運用を開始した。2020年9月より設置し、今年度は、回答者は、大阪大学医学部附属病院てんかんセンターに所属する医師であるが、今後は大阪府の協議会にも依頼する予定である。内容としては、現在の治療内容に関する質問、医療福祉サービスや受け入れ可能な病院の紹介、運転免許等に関する問い合わせがあった。本年度は9月末までに9件の相談を受け付け、適宜担当者から回答した。

3. てんかん診療マップへ追加登録

大阪府下のてんかん診療医療機関を周知し、患者が自らアクセスしやすくなることや、他院へ紹介する際の医療設備・診療内容を分かりやすく検索することができる様にてんかん診療マップを作成し、随時更新した。(下図参照)

<https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/home/epilepsy/search/>

診療マップ登録全件数 145 件

☑ 大阪府下のてんかん診療病院検索

対象年齢	<input type="checkbox"/> 小児 <input type="checkbox"/> 思春期 <input type="checkbox"/> 成人 <input type="checkbox"/> 高齢者
合併症	<input type="checkbox"/> 精神疾患 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 身体障害・医療的ケアを要する患者
医療機能	<input type="checkbox"/> 安定した患者さんにおけるてんかんのプライマリケア（日常の診療・処方） <input type="checkbox"/> てんかんの診断 <input type="checkbox"/> 服薬調整 <input type="checkbox"/> 脳波による診断 <input type="checkbox"/> MRIによる診断 <input type="checkbox"/> 発作時ビデオ脳波モニタリングによる診断 <input type="checkbox"/> てんかんの外科治療 <input type="checkbox"/> 複数の診療科による集学的治療 <input type="checkbox"/> てんかん発作重積時の救急対応 <input type="checkbox"/> てんかん患者の妊娠に関する説明・対応 <input type="checkbox"/> 自動車運転免許の診断書作成 <input type="checkbox"/> ビガバトリン処方 <input type="checkbox"/> てんかん食事療法 <input type="checkbox"/> 迷走神経刺激装置調整
自院でできる検査	<input type="checkbox"/> 血液検査 <input type="checkbox"/> 抗てんかん薬血中濃度 <input type="checkbox"/> 心電図 <input type="checkbox"/> 脳波計 <input type="checkbox"/> ビデオ脳波モニタリング <input type="checkbox"/> CT <input type="checkbox"/> MRI <input type="checkbox"/> SPECT <input type="checkbox"/> PET <input type="checkbox"/> 遠隔診療システム
他院からの依頼を受け付けている検査	<input type="checkbox"/> CT <input type="checkbox"/> MRI <input type="checkbox"/> EEG
キーワード	<input type="text"/> <input checked="" type="radio"/> すべてを含む <input type="radio"/> いずれかを含む

4. その他

2019 年度以降

- 1) ホームページの作成
- 2) てんかん診療マップの作成
- 3) 共通紹介状の作成
- 4) 相談窓口の作成
- 5) アンケートの実施
- 6) 情報銀行の利用
- 7) コミュニケーションアプリの作成
- 8) セミナーの整備、周知